



振袖に身を包み記念撮影を楽しむ出席者の皆さん



代表あいさつ



こうだ ちかこ
神田 千佳子さん
(生月地区)

この世に生を受けて約20年という月日は、こうしてこの場に立つと、あつという間だったように思います。成長していくにつれ、将来への不安を感じるようになった人もいるでしょう。ですが、私たちのまわりには、支え合う仲間や、教え導いてくれる先生方、温かく見守ってくださる地域の方々がいました。その中でも、私たちの手を決して離さず、愛し、育て、一番近くで一番長い時間を共に過ごした家族の存在は、計り知れないほど大切なものです。数多くの方々に支えられ、私たちはここまで成長することができました。

次は、私たちが支える番です。私たちは、まだまだ育ち盛りの苗木同然ですが、数年後、成長に携わってくれた方々が、安心して背中を預けられる、立派な大樹になることでしよう。これから成人として生きていく決意を心に刻み、精一杯精進していくことをここに誓います。

令和5年 は た ち 平戸市 二十歳のつどい

1月3日、平戸文化センターで「令和5年平戸市二十歳のつどい」が開催されました。新たな門出を祝福するような晴天の中、今年度20歳を迎える対象者274人(男女各137人)が出席。友人や恩師との久しぶりの再会を喜び合いました。



むらかみ そうた
村上 颯汰さん
(南部地区)

この20年間を振り返り、友達や家族、先生や平戸市の多くの人々に支えられたおかげでここまで成長することができました。さらに自然豊かなこの平戸市で様々な経験ができたことも成長できた理由の一つだと思います。

私は高校卒業後、将来何をしたいかを見つけるために、平戸を離れ福岡の大学に進学しました。友人との交流を深めたり、就活のために資格を取ったり、いろいろな経験をしたりと今しかできないことがたくさんあります。私はこの二十歳のつどいは、自分が将来したいことは何かをもう一度考え直すいい機会だと捉えています。今できることを精一杯頑張る、様々なことに挑戦し、後悔のないように励んでいきましょう。今まで育て支えてくれた両親や、周りの人達、平戸市への感謝の気持ちを忘れず、恩返しができるよう過ごしていきたいでしょう。



各中学校区を代表し、「二十歳のつどい」の企画・運営に携わった実行委員の皆さん

令和4年4月から、成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、今回から「成人式」という名称を「二十歳のつどい」改めました。

式典では、黒田市長が各中学校の代表に「二十歳の成人証書」を授与。「未来に向かって大きな夢を抱き、チャレンジし続けてほしい」と式辞を述べました。代表者あいさつでは、神田千佳子さん、村上颯汰さんの2人が、これまで支えてくれた人たちへの感謝とこれからの飛躍を誓いました。

式典の前には、地元の先輩である大相撲の幕内力士平戸海関からのビデオメッセージが上映され、「逆境に負けず目標を持ち続けてほしい」とエールが送られました。